

平成28年11月1日(火)

老球の細道279号

会津バスケットボール籠友会講演

会津バスケットボール協会 室井 富仁

会津には今どき珍しいバスケットボール同窓会がある。「会津籠友会」である。会津地区で学生時代バスケットボールをプレイした人たちの集まりで、出身校は色々、年齢も下は40代から上は70代までのボーダレス。毎年1回集まってバスケットボール談義で交流を深め、今年で創設25周年を迎えるという。

籠友会代表の斎藤哲二先生から、25回目の籠友会で「最近の日本のバスケットボール界の現状」について講演をしてくれと依頼され、10月15日(土)会津若松市「ルネッサンス中ノ島」で『日本のバスケットボール革命と会津のバスケットボール』という演題で話をさせてもらった。26名が参加者してくれた。下記は講演の骨子である。

1・FIBAが国際資格停止処分を下した(2014年11月)3つの理由

- ① トップリーグの並立：JBLとbjリーグのトップリーグが国内に2つある。国際的には異状状態である。企業スポーツの閉鎖性とbjリーグの中途半端な運営も問題。
- ② 日本代表の低迷：それぞれの連盟内での戦いに終始し世界で戦うためのシステムが不備である。国際大会より国内大会重視、4年後に五輪を開催するのに大丈夫か。
- ③ ガバナンス(協会の統治力)の不在：各連盟がバラバラ、意思決定が遅い。国内でまとまりが欠如しているのでは世界から取り残されてしまう。

2・FIBAの制裁解除(2015年8月、2年間モニタリング期間)とこれから

- ① タスクフォースと日本協会新役員：サッカーの川淵三郎氏による強力なリーダーシップで事態收拾が図られた。バスケットボール界に人材がいなかったことは残念だった。
- ② トップリーグの統一とガバナンスの方向性：Bリーグの開幕でトップリーグ統一の実現。各都道府県協会の法人化が完遂しガバナンスへの道筋が示された。
- ③ これからの新生日本バスケットボール：男女日本代表が五輪で常時活躍。日本中で老若男女がバスケットボールを楽しめる環境作り。新聞、テレビなどでバスケットボールの報道、放映が日常化。日本のバスケットボールを3大メジャースポーツに。

3・現在、今後の具体的な主な変革

- ① 各都道府県協会の法人化：福島県バスケットボール協会も「一般社団法人」に。
- ② 登録制度体系の再構：登録料を「JBA」で一元化。登録料を日本全体で統一する。
- ③ ライセンス制度の構築：レフリー、コーチライセンスを6段階に統一。公式戦はすべてJBAライセンスを持ったレフリー、コーチで。
- ④ 15歳未満の大会はマンツーマンディフェンスの推進：世界の常識。個の能力の育成。
- ⑤ オールジャパン(全日本男女総合選手権大会)の改編：日本最高のレベルの大会にする。
- ⑥ 競技環境の充実：各カテゴリーの再編によるリーグ戦を行う。
- ⑦ Bリーグの発足：B1、B2共に18チームで3地区に分かれてリーグ戦で争う。

4・これからの会津のバスケットボール

「バスケットボールでの人間教育」と「バスケットボールで飯を食える」の両立を図るために、指導者の世界を見据えた指導、クラブチームの設立、各カテゴリーの連携、会津からプロ選手、プロコーチ、レフリーの輩出。